

活動報告：子どものための音楽会

1. ねらい

近隣の未就学児とその保護者を対象とした「子どものための音楽会」は、2011年度からスタートし8年目を迎え、ぶんぶんひろばの活動の1つとして定着している。この音楽会は広島文化学園大学学芸学部音楽学科2年次に開講している「演奏活動Ⅰ」（前期：選択科目）、「演奏活動Ⅱ」（後期：選択科目）の実践学習の一環として、木曜日の11時30分から12時の30分間、子ども・子育て支援研究センターぶんぶんひろばにて実施している。



写真1 ダンスを取り入れた音楽会の様子

授業は、子どもを対象とした演奏会について、企画の立て方、プログラムの組み方、しゃべり方、立ち振る舞いを始め、子どもたちをひきつけるためのパフォーマンス力を磨くことを目標に設定された科目である。さらに、子どもや保護者の演奏ニーズを把握し、そのニーズに応じた演奏会を開催することを目標にしている。

2. 活動の内容

授業では、最初にグループ分けをおこない、グループ毎に手遊び曲のパフォーマンスを練習し披露するところからスタートする。つぎに、音楽会全体のコンセプトを決め、選曲し、視覚支援のためのイラストやペープサートなどの準備を行い、演奏や演出の練習を重ね、通しリハーサルを行ったうえで本番を実施している。さらに、演奏会終了後は保護者のアンケート集計およびDVD視聴による振り返り（反転学習）を必ず行い、報

告書を作成し反省点をもとに次回の音楽会を企画する。といった流れで実施している。音楽会の約束事として、グループ毎に2・3曲の手遊び歌を用意すること、そして子ども達が簡易楽器などを使って音楽に参加する場面を作ることを条件としている。



写真2 子どもに簡易楽器を配布する学生の様子

3. 2018年度実績報告

2018年度は前後6回、後期8あわせて14回の「子どものための音楽会」を開催した。前期後期ともに2グループが交互に演奏会を開催する形で実施した。

表1 2018年度「子どものための音楽会」実施概要

回	実施日	楽器編成
1	5月17日(木)	トランペット、ホルン、チューバ、パーカッション
2	5月31日(木)	箏十三絃、サクソフォン、ベース、パーカッション、ピアノ
3	6月14日(木)	トランペット、ホルン、チューバ、パーカッション
4	6月28日(木)	箏十三絃、サクソフォン、ベース、パーカッション、ピアノ
5	7月12日(木)	トランペット、ホルン、チューバ、パーカッション
6	7月26日(木)	箏十三絃、サクソフォン、ベース、パーカッション、ピアノ
7	10月18日(木)	サクソフォン、トランペット、箏十三絃、パーカッション、ピアノ
8	10月25日(木)	クラリネット、ホルン、ユーフォニアム、チューバ、ピアノ
9	11月15日(木)	サクソフォン、トランペット、箏十三絃、パーカッション、ピアノ
10	11月29日(木)	クラリネット、サクソフォン、ユーフォニアム、チューバ、ピアノ
11	12月13日(木)	サクソフォン、トランペット、箏十三絃、パーカッション、ピアノ
12	12月20日(木)	クラリネット、トランペット、ユーフォニアム、チューバ、ピアノ
13	1月17日(木)	サクソフォン、トランペット、箏十三絃、パーカッション、ピアノ
14	1月24日(木)	クラリネット、ユーフォニアム、チューバ、ピアノ、パーカッション

(実践資料および授業記録から作成)

表1は2018度に開催した「子どものための音楽会」の概要をまとめたものである。

前期と後期を続けて履修する学生が殆どではあるが、前期だけ、後期だけと半期の履修だけで終える学生も少なからず居ることから、特に後期については新規に履修する学生への配慮も考慮しながらグループ編成を検討している。



写真3 季節に合わせた演出

子どもを対象にした音楽会は視覚的な支援が効果的であることから、キャラクターや季節に合わせたペープサート、衣装などを用意させている。とくに季節に合わせた唱歌や童謡、手遊び歌などは必ずプログラムの中に組み込むように指導し、毎回参加する親子にも楽しんでもらえるように毎月の音楽会の変化を演出するように工夫をおこない、子どもたちが音楽だけではなく視覚的にも楽しめる音楽会を目指し準備をおこなっている。



写真4 音楽会を観察する学生の様子

出演しないグループに属する学生は、親子と一緒に音楽会に参加し、客観的に演奏者や親子の様子を観察する活動を取り入れた。写真4は、学生が観察をしながらチェックシートを記入している

様子である。チェックシートには、話し方や表情、演出、演奏の質のほか、子どもへの安全面への配慮があるかどうかなどの項目があり、それぞれ◎、○、△、×で評価し、それぞれの項目でコメントを記入するようにしている。親子と同じ目線で、一緒に参加することで、楽器を配るときの配慮や、親子からのステージの見え方などを、体感を通して学ぶことができ、回を重ねるごとに、客観的に視点で演出を考えることができるようになるなどの効果があった。

4. 今後の課題と展望

保護者へのアンケート調査は①プログラムの中で良かった曲、②子どもに聴かせたい曲、③実際に家庭で子どもに聴かせている曲、④子どもの年齢と性別、⑤音楽会の参加回数、⑥自由記述（学生へのメッセージ・要望など）の6項目を設定している。

この保護者アンケートの集計結果と見学学生が記入したチェックシート、そして録画した映像を確認することで、音楽会をできるだけ客観的に振り返らせ、反省点を次の音楽会に向けて活かせるようにしている。



写真5 保護者にアンケートを依頼する様子

保護者のアンケートの自由記述欄には、学生への応援メッセージや感謝の言葉のほかに、話し方などのアドバイスも多く寄せられ、学生たちにとって貴重な機会となっている。

2018年度は、演出や選曲に時間をかけてしまい肝心の演奏内容が伴わなくなってしまうケースが見られたため、今後は演奏の質を上げていく工夫と指導をさらに充実させていきたい。

（文責：学芸学部音楽学科 高橋 千絵）